

札幌市立手稲中央小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.teinechuo-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等

本校は手稲山の裾野に位置し、豊かな自然に恵まれ、多種多様な動植物が生息している。冬季は、山の麓ということもあり雪が多く寒さも厳しい。そんな中、ウィンタースポーツをはじめ、地域のイベント等で雪と親しむ環境の中で生活している。

過去には、学校と地域別々に行っていたスノーキャンドルやアイスキャンドルを総合的にまとめて、地域行事に発展させてきた経緯がある。また、生活科や休み時間などには、階段状のスタンドを利用した「米袋ぞり」遊びを続けてきた。さらに、生活科や総合的な学習の時間を利用して、雪像や雪中運動会なども実施してきた。地域の中でも、連合町内会主催の雪中遊びや、手稲区主催のイベントもある。

2. 実践単 1

(1) 単元名・題材名

6年生 総合的な学習の時間 「ていねウィンターデコレーション」 (15時間扱い)

(2) 目標

- 自分が住んでいる手稲に関心を持ち、地域を明るく活性化活動を通して、雪を利用して様々なことができることに気づくことができる。
- 手稲中央幼稚園や手稲区保育・子育て支援センターの園児と交流することで、上級生として進んで行動する態度を養う。

(3) 取組の様子

① スノーキャンドル制作

1月30日(水) スノーキャンドル制作

- ・半数は手稲中央幼稚園訪問。現地で園児と制作する。
- ・もう半数は、学校へ来た手稲区保育・子育て支援センター園児と校地内で制作する。



どちらもスノーキャンドル作成後、キャンドルキャップとポスターも作成する。

② スノーキャンドル点灯

2月6日(水) 点灯式

夕方、手稲中央幼稚園・手稲区保育・子育て支援センター・手稲中央小学校の3箇所で、点灯式を開催。

2月6日(水)～7日(木) 点灯



(4) 実践のまとめ

- ・点灯式には、たくさんの子が参加し、自らキャンドルを灯し明るく照らされた様子を見て自分が住んでいる手稲の街に関心をもち、地域の一員としての認識を深めた。
- ・活動を通して、園児たちと触れ合う様子から、「自分を見つめる力」「関わる力」の育ちを再認識することができた。

3. 実践2

(1) 単元名・題材名

5年生 総合的な学習の時間「雪の利用を考えよう」

(2) 単元・題材の目標

札幌の気候的な特徴である雪について調べることによって、冬や雪の良さ・地域の良さを知ることができる。また、雪と触れ合うことで、雪や冬に対し親しみをもち、雪や冬の素晴らしさを実感することができる。



(3) 取組の様子

○雪像を作ろう

- ・雪まつりや、手稲区雪の祭典など、イベントや活用について調べたことをもとに、自分たちで雪像を作ってグラウンドを飾った。

(4) 実践のまとめ

- ・雪について調べたことで、その良さも知り、普段屋内にこもりがちだった子ども、積極的に雪像作りに関わることもできた。

4. 実践3

(1) 単元名・題材名

2年生 生活科 「冬を楽しもう」

(2) 単元・題材の目標

雪の積もった外でいろいろな遊びを計画したり工夫したりする活動を通して、より雪に親しみ、冬を楽しもうとする態度を育てる。また、グループでの話し合いや共同作業を通して、話し合いの仕方や準備・分担の仕方等を身につける。

(3) 取組の様子

○雪を使って何をするか計画を立て、実施する。

- ・それまで休み時間に米ぞりで遊んだことから発展して、雪中運動会を計画した。
- ・計画した様々な種目を、雪の中で楽しむことができた。

(4) 実践のまとめ

- ・自分たちで相談して計画や準備を進めたことで、みんなで協力して雪を楽しんだ。

5. 研究のまとめ

3つの学年が様々な活動を繰り返し広げたことで、学校全体で雪の活用への関心が高まり、他学年でも進んで雪像を作るなど活動が増加し、グラウンドが雪像などでにぎやかになった。また、インフルエンザなどの流行もなく、元気に過ごしている。